



第13号(2012. 4.)

能登高だより

石川県立能登高等学校
927-0433

石川県鳳珠郡能登町字宇出津マ字 106-7

TEL:0768-62-0544 FAX:0768-62-2935

ホームページ <http://www.ishikawa-c.ed.jp/~notoxh/>

(ブログ <http://blog.goo.ne.jp/notokoukou/>)



能登高校 第4回入学式

この能登高だよりを通じて、本校の行事や生徒の学校生活などを発信し、保護者・地域の皆様に、本校の魅力を少しでも多く伝えていきたいと考えております。



能登高校の第4回入学式が4月9日に行われました。新入生 79 名が門出の日を迎えました。

今年度入学したのは、普通科 29 名(男 18 名、女 11 名)、地域創造科 50 名(男 30 名、女 20 名)。新入生代表の普通科Kさん、地域創造科Tさんによって新入生宣誓が行われました。

< 学校長式辞 抜粋 >

新入生の皆さん、ご入学おめでとう。皆さんを石川県立能登高等学校の生徒として心から歓迎いたします。

高校ではすべて「実績」や「成果」で評価します。義務教育であった中学と違い、「気持ち」があったとか「目が輝いていた」だけで評価はしません。先生方は皆さんの努力を信頼して評価します。学習ではありません。毎日の基本的な生活態度や行動も同じです。遅刻や理由のない欠席、定期考査の欠席等が多いと、やがて指導を受けることになるでしょう。すべて自己責任となります。しかし、学校へ行くのが楽しいと思っていれば、そんなことはおきこないので大丈夫です。

入学したばかりですが、すでに時計の針は動き始めています。時間は無限にあるわけではありません。

昨年は、3月11日に東日本大震災があり「命」という物のかなさを知り、「絆」という「愛」を知り、「生きる」「生ききる」という事を学習した年でした。「命」というものが与えられると同時に万民、皆、平等に与えられる「時間」「時」があります。この時間、時を有効に使わない手はありません。目標を持って日々の生活を送る。目標、目的を持った人間は強いです。身体だけではなく、「心」も強くなりましょう。

皆さんは、自己の夢実現・進路実現のため、この能登高校に入学したのです。このことを決して忘れないでください。まずしっかりと目標を持ち、「なりたい自分になる」ために、ひたむきに努力を重ねてください。努力は決してみなさんを裏切りません。いつかその努力は形となって自分に戻ってきます。

「能登高丸」に乗船し自己実現という目標を持った皆さんを、目的の港まで案内するのが、私たち教職員の役目だと考えております。雨風の悪天候の日、波が高い時、それぞれが自分の役目を果たしながら、停船し、じっと時間の過ぎるのを待つ時もあるれば、穏やかな日には、スピードを上げ海の航海を楽しむ時もあります。

この三年間で学力を高め、知識や技術を身につけ、新しい仲間達と切磋琢磨し合って、気力と体力の充実に向けてください。本校には、皆さんが目標を達成できるチャンスがいつでも、どこでも与えられています。

いわば今日から、能登高校でのチャンスという「宝探し」が始まりました。

最後にお願ひがあります。79名の皆さん。家族、皆さんの周りにいる友達に感謝する心を持ってください。これから出会う友人や先輩たちと、自分自身を大切に、毎日をしっかりと生きてください。



対面式

新入生と2・3年生の生徒の対面式が4月10日に行われました。
2・3年生と新入生が向かい合い、「よろしくお願ひします。」と大きな声で挨拶をかわしました。新入生代表のIさん、Kさんと生徒会執行部が挨拶をしたあと、握手を交わしました。
2・3年生が新入生の前で校歌を大きな声で披露し、新入生と一緒に校歌を歌いました。



対面式のあとに部活動紹介が行われました。様々な部活で独自のパフォーマンスが行われ、拍手や笑い声にあふれた部活動紹介となりました。新入生はどの部活動に入部するか悩んだのではないのでしょうか。目標をしっかりと定め、先輩たちとともに頑張ってください。



アーチェリー部



書道部



ウインドサーフィン部



野球部



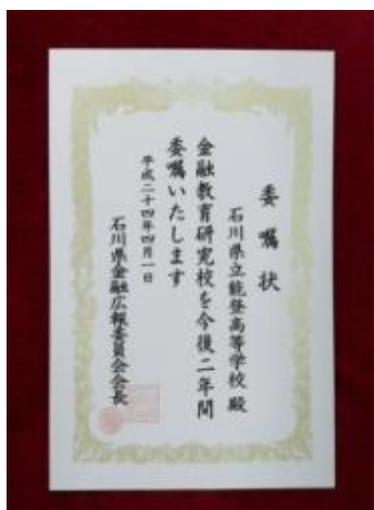
吹奏楽部



柔道部

部活動紹介

金融教育研究校



能登高校が石川県金融広報委員会より、金融教育研究校に委嘱されました。

金融教育研究校とは、幼児、児童、生徒の発達段階に応じた金銭教育ないし金融教育の研究および実践を支援するために、都道府県金融広報委員会が委嘱する研究校です。

金融教育とは、お金を使う、貯める（運用する）、稼ぐ、借りるなど、お金のさまざまな側面にかかわる知識・情報の活用を通じて、合理的で豊かな生活を築くための教育をさします。具体的な内容として、①生活設計・金銭管理に関する理解、②金融・経済のしくみや現状等に関する理解、③消費者保護やトラブルの未然防止に関する理解、④主に若年者を対象とした仕事や職業に対する理解を含みます。